

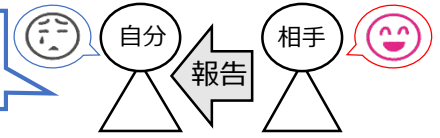
自尊心と親密度が 悲しみ感情の表出抑制に与える影響

小畑 若菜・神部 葵・星 友紀乃

着想の経緯

成績が悪くて落ち込んでいるとき、友人からいい成績をとったことを嬉しそうに報告され、悲しみ感情を隠したことがあった。

悲しみ感情をなぜ隠すか？

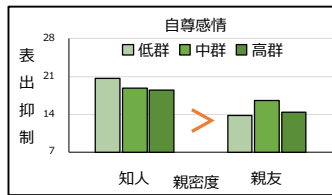


これまでの知見

- ①親密度** 最も親しい友人よりも同学年の顔見知り程度の知人の方が悲しみの感情表出の抑制をする(小隅ら,2016)。
- ②自尊心** 自尊心が低い人は高い人よりも自己の否定的内容を開示することに抵抗感を持っていた(亀田,2003)。

結果と考察

1.自尊心と親密度が表出抑制に及ぼす影響



- ・知人のほうが表出抑制をする
- ・自尊心との関連は見られなかった

用語説明

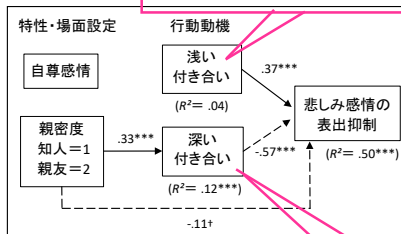
- 表出抑制** : 実際に感じている感情を表出しないこと
- 親密度** : 知人「同学年の顔見知り程度の友人」
親友「同学年の最も親しい友人」
- 自尊心** : 優越性や完全性ではなく「これでよい」とする自己受容や自己の感覚
- 行動動機** : 浅い付き合い動機
相手に悪く思われたくないから等
深い付き合い動機
相手と深い付き合いがしたいから等

親密度について
自分の印象を下げるかもしれないという不安や、相手に迷惑をかけたくないと思うのではないか。

自尊心について
ケアレスミスは、注意すれば回避できることである。そのため、仮説とは異なり、自尊心が高い人でも、知人に対して、失敗による悲しみ感情表出を恥ずかしいと思ひ、抑制をするのではないか。

2.行動動機と表出抑制の関連

①相手に迷惑をかけないように行動を選択するため表出抑制をするのでは？



- ①浅い付き合いと正の関連あり
- ②深い付き合いと負の関連あり

②相手が自分を受容してくれると考え、今後の関係を期待して行動を選択するため表出抑制をしないのでは？

目的

- 1.自尊心と相手との親密度**が悲しみ感情の表出抑制に与える影響を検討する。
【仮説】 親密度が低い人に対しての方が抑制する。ただし、知人に対してでも、自尊心が高ければ抑制しない。
- 2.行動動機と悲しみ感情の表出抑制**の関連を検討する。

方法

- 1.分析対象者** : 宮城学院女子大学の学生144名
親友または知人について答えてもらった
- 2.質問紙の構成**
 - (1)悲しみ感情の表出抑制等について
 - ①仮想場面の提示
自分のケアレスミスにより試験の結果が悪く、悲しい感情状態にあるときに、結果が良かった相手が嬉しそうに報告してくる場面
 - ②仮想場面でのどのような行動を取るか
 - ③②でその行動を取る理由について
 - ④失敗場面を経験したとき、どの程度悲しいか
 - (2)自尊心について

まとめ

- ◆自分が悲しみ感情状態にあるときに、成功した相手が嬉しそうに報告してくる場面で、**悲しみ感情の表出抑制**をするのは、**相手との親密度**の影響が強く、**行動動機**の影響もあることが示された。
⇒悲しみ感情を表出するか抑制するかを決める際に相手との親密度、今後相手とどのように付き合いたいかを考慮して行動を決めている。
亀田 (2003)との違い
- ◆**ケアレスミス**の場合、自尊心との関連が見られなかった。結果のコントロールが不可能な場面であれば自尊心による差がみられるのでは？